

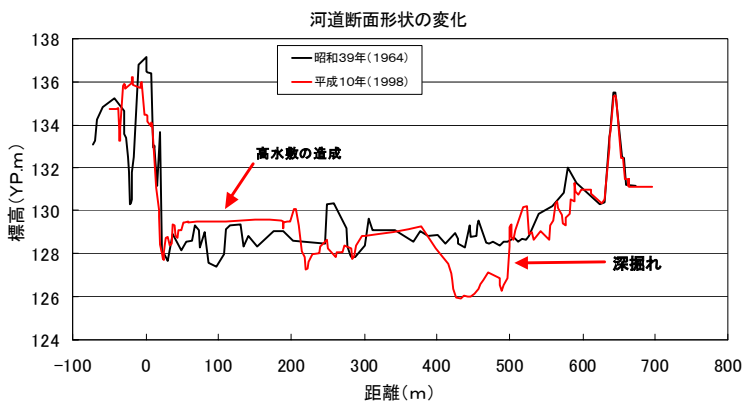
## 国内事例 2 ● 鬼怒川

### ①現状の把握（歴史的変遷も含む）

鬼怒川では、土砂供給量の減少や砂利採取等により、大幅に河床が低下している。

この河床低下等によるみお筋の固定化・砂州の単列化、河原の攪乱頻度（冠水頻度）の減少、新たな植生（シナダレスズメガヤなどの外来種等）の侵入・繁茂などにより、鬼怒川らしい礫河原が失われつつある。

その結果、鬼怒川では、絶滅危惧 1B 類のカワラノギク等の礫河原に生育する植物が絶滅の危機に陥っている。このような状況から、鬼怒川では礫河原の保全・再生が急務となっている。



- ・土砂供給量の減少
- ・砂利採取
- ・高水敷利用による低水護岸の設置 等



- ・鬼怒川下流部の大幅な河床低下  
(平均河床高で約2m、最深河床高で約3~4mの低下)
- ・みお筋の固定化・砂州の単列化
- ・河原部の攪乱頻度（冠水頻度）の減少



- ①高水敷への植物の侵入・樹林化
- ②河原への植生（外来種）の侵入・繁茂
- ③礫河原・砂河原の消失
- ④河原固有生物の減少
- ⑤鬼怒川固有の景観の変化



鬼怒川らしさの消失

1947年  
(昭和22年)  
の状況



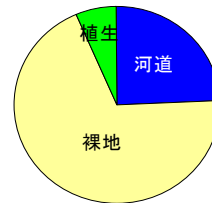
約50年での変化

2000年  
(平成12年)  
の状況

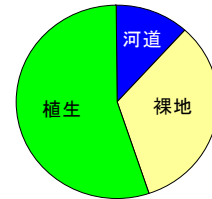


航空写真から見た植生の変化

(氏家大橋から JR 東北新幹線橋付近の約 2.5 km の河道内植生)



裸地が減少し  
植生が増加



### ②目標設定

長期目標 : 本来の鬼怒川らしさの再生

- ⇒ 鬼怒川の清流の回復をめざす
- ⇒ 鬼怒川らしい川の形をめざす
- ⇒ 鬼怒川の生物の保全・再生をめざす。
- ⇒ 鬼怒川らしい景観の保全・再生をめざす

当面の目標 : 当面の目標 : 礫河原の復元 (再生)

- ⇒ 河原固有種（カワラノギク等）の自生環境の再生

### ③取り組み



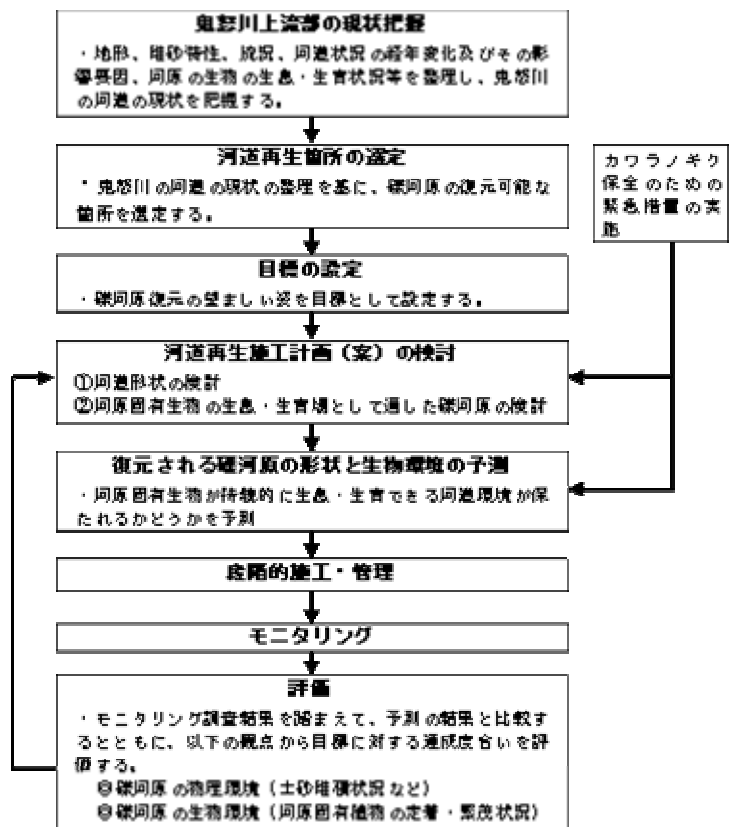
カワラノギク(河原固有種)



鬼怒川上流部においては、河道の複断面化の進展、外来植生の繁茂等により、河原固有生物（カワラノギク、カワラニガナなど）の減少が著しい。そのため、当該事業では失われつつある本来の鬼怒川らしさを復元（再生）するために、シンボルとして「カワラノギク」の種の保存場所の確保や鬼怒川らしさを再生するための河道再生の検討を行うものである。

【ポイント】

- 「礫河原の復元（再生）」
- 「河原固有種（カワラノギク等）の自然環境の再生」
- 1) 試験地（種の採取場所）の造成
  - 緊急措置として、試験地（種の採取場所）の造成を行い、カワラノギクの種の保存場所を確保。
- 2) 河道再生の検討
  - 河原固有生物が持続的に生息・生育できる環境及び管理手法等について調査・検討を行う。



④モニタリング・評価

試験地（種の採取場所）のモニタリング、管理については、学識者や地元との協働で実施している。

⑤合意形成

学識者、地域住民、行政からなる鬼怒川自然再生検討会を組織し、河道再生について検討を行い、事業化に向けての合意形成を図っていく。

